

抗甲状腺剤メルカゾールとは

抗甲状腺剤メルカゾールは、甲状腺でホルモンが過剰に作られるのを抑え、血中の甲状腺ホルモン量を正常にすることにより、甲状腺機能亢進症(バセドウ病)の症状を抑えます。症状が改善してきたら量を調節し、甲状腺を刺激する抗体(TRAAb)が血液から消えるまでメルカゾールを服用します。

服用開始後、どれくらいで効果が現れるかは、その人の甲状腺中の甲状腺ホルモン量で決まります。抗体が消えないうちに服用を中止すると再び甲状腺ホルモンが増加して、症状が再発することがあります。

妊娠をご希望の方へ

バセドウ病の患者さんが妊娠・出産するためには、適切に治療を受け、甲状腺の機能を正常に保つことが重要です。そのためにも、**妊娠をご希望の際はあらかじめ医師にご相談ください。**

妊婦、授乳婦の方へ

妊娠中は、定期的に甲状腺機能の検査を実施し、母体や妊娠週数に応じた適切な投与量を維持することが重要です。**医師の指示に従い、服用をしてください。**授乳をご希望される方は、**医師に相談し適切な服用を行ってください。**

医師・薬剤師の連絡先

 **あすか製薬株式会社**

このお薬は、
甲状腺機能亢進症
(バセドウ病)の
お薬です。

メルカゾールを のまれる方へ

監修：伊藤 公一先生(伊藤病院 院長)
吉村 弘先生(伊藤病院 学術顧問)

ホームページをご覧ください

メルカゾールを安全に
お使いいただくために

 あすか製薬
ホームページ <http://www.aska-pharma.co.jp>

このお薬を飲み始めてから2ヶ月以内にまれに
重い副作用が起こることが知られています。最初の
2ヶ月間は2週間ごとに血液検査を行いますので、
必ず来院してください。

バセドウ病とは

バセドウ病は、自己免疫疾患^{*1}のひとつで、甲状腺を刺激する抗体(TRAAb)が原因で、甲状腺ホルモンが過剰に作られる病気です。

甲状腺ホルモンはからだの新陳代謝を促しますが、多すぎると心臓をはじめとして、いろいろな臓器に負担が掛かってきます。

バセドウ病の症状

甲状腺ホルモンが過剰なままにしておくと、心臓や肝臓などのいろいろな臓器に負担がかかり、頻脈や高血糖の原因にもなります。また骨のカルシウム量が減って骨粗鬆症になることがあります。

甲状腺ホルモンが過剰な状態で妊娠すると流産や早産、妊娠中毒症を起こしたり、おなかの赤ちゃんにも悪い影響を与えたりすることが知られています。早く診断を受けて、適切な治療を受けることが必要です。

その他

動悸、息切れ、体重減少、暑がり、かゆみ、いらいら、集中力の低下、手指のふるえ、食欲が増す、生理不順など



眼球突出

目が出る、目つきがきつくなる



頻脈

脈拍数が増える



甲状腺の腫れ

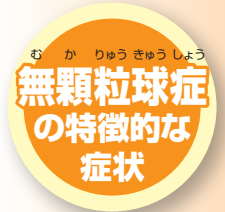
首が腫れる、太くなる

メルカゾールを飲み始めてから2ヶ月までの方へ

以前、メルカゾールを飲んでいていた経験がある方も含まれます。

このお薬(メルカゾール)は、飲み始めてから多くは2ヶ月以内に、まれに「無顆粒球症^{*2}」・「肝機能障害」・「MPO-ANCA関連血管炎症候群^{*3}」などの重い副作用が起こることが知られています。飲み始めて2ヶ月間は2週に1回血液検査を行いますので、必ず来院してください。血液検査を行わないと副作用の発見が遅れ、重症化するおそれがあります。

また、右記の症状に気がついた場合には、すぐにメルカゾールの服用を中止して、医師又は薬剤師に連絡してください。



メルカゾールを2ヶ月以上飲まれている方へ

メルカゾールを飲み始めてから2ヶ月を過ぎた方も、定期的に血液検査を行いますので、医師の指示に従って来院してください。

この薬の効果が現れるまで、飲み始めてから早くも2~4週間、ときにはそれ以上かかることがあります。薬を続けていると、自覚症状がなくなり楽になってきますが、薬で抑えられているだけで病気が治ったわけではありません。

症状がなくなったからといって、ご自分の判断で薬の服用を中止すると再び症状が現れたり、服用を再開したときに、副作用が起こったりすることがありますので、必ず医師の指示を守り、根気よく服用を続けてください。

通常、長期間服用を続け、甲状腺の働きが正常になってきたら、薬を徐々に減らしていき、甲状腺を刺激する抗体がなくなったら、薬をやめられるか検討を行います。

薬をやめられるようになって、きちんと通院し、検査を受けて再発に注意する必要があります。



熱が出る
(38度以上)



喉の痛み

メルカゾールの副作用

メルカゾールの副作用には、無顆粒球症の他にも「肝機能異常(AST、ALTなどが悪くなったり、黄疸が出たりする)」「かゆみ、皮疹」「関節痛」などもあります。メルカゾールの服用を始めて、副作用と思われる症状が発現した場合には、医師又は薬剤師へご相談ください。

^{*1}: 自己免疫疾患…通常、免疫は外から侵入したウイルスなどを攻撃し健康を維持するための仕組みですが、まれに自分自身の体を攻撃目標とする抗体を作ってしまうことがあります。バセドウ病ではこの抗体が休むことなく甲状腺を刺激し、甲状腺ホルモンを作らせてしまいます。

^{*2}: 無顆粒球症…血液中の白血球成分のうち顆粒球(特に好中球)が減少し、ほとんどなくなる病気で、細菌に感染しやすくなります。

^{*3}: MPO-ANCA関連血管炎症候群…小血管に炎症がおこり、腎・肺などの小血管が豊富な臓器に障害が起こります。